中部大学大学院　国際人間学研究科レポート

2015 Vol.6

GLOCAL

Forum

■私の学生時代
海外を夢想し続けたわが青春 ―― 青木澄夫

■黄宗羲の授時暦研究 ―― 小林博行

■貨幣からみた中国革命 ―― 一谷和郎

■マックス･スタイナーの映画音楽にみる
「ハリウッド式モティーフ」の確立とその発展的可能性 ―― 尾鼻　崇

■反テロリズムの思想
― アルジェリア人質事件とアルベール･カミュの「反抗」論 ―― 桃井治郎

Symposium

■悩むことは幸せの第一歩
― 人を育てる学生相談 ― ―― 願興寺礼子

■紫煙の向こうに「幸せ」はあるか ―― 小川　浩

Note

■浜松市沿岸部における津波避難施設の圏域分析
避難に影響を与える環境条件に注目して ―― 佐野浩彬

■日本語教育から見た「アニメの日本語」
コーパス日本語学に基づく現実性および適切性分析 ―― マシュー・ラニガン

■A Study on Activation of
Nepalese Handicraft Industries ―― サハ タクリ スニル

中部大学大学院国際人間学研究科
Chubu University Graduate School of Global Humanics

Profile

国際人間学研究科国際関係学専攻　教授

青 木 澄 夫（AOKI Sumio）

1974年、富山大学文理学部人文学科国史学専攻卒業。民間会社、ナイロビ日本人学校勤務などを経て独立行政法人国際協力機構（JICA）に勤務。2004年から現職。専門は日本とアフリカ・東南アジア交流史。著書に『放浪の作家安藤盛と「からゆきさん」』『日本人のアフリカ「発見」』『アフリカに渡った日本人』、共著に『アフリカ学事典』『アフリカから学ぶ』『アフリカ学入門』など

Forum

私の学生時代

海外を夢想し続けたわが青春

中学一年生の時、初めて自分で本を買った。実家（信州）から松本市の書店へ出かけ、手に入れたのがNHK取材班の『南アメリカ』だった。同じ日、あわせたように高校生の兄が同じシリーズの『アフリカ』を買ってきてくれた。

兄から教えてもらった東京の丸善に、イギリス製の「南アメリカ」と「アフリカ」の地図を注文し、毎夜眺めながら、「わが夢は　遠くアフリカ　南米へ　地図の上にて　心弾む」と、まだ見ぬ遠い世界を夢想していた。

高校生の兄は、チベット、中央アジアが好きで、河口慧海やヘディンにあこがれ、『人民中国』を購読していた。私もソ連大使館が発行していた月刊グラフ誌『今日のソ連邦』を定期購読した。何となく社会主義に憧れていた時期だ。

社団法人『アフリカ協会』が『月刊アフリカ』と言う雑誌を刊行していることも兄から教わった。東京の事務局にバックナンバーを欲しいと手紙を書いたら、段ボール箱ひと箱の雑誌が送られてきた。続いて請求書も送付されてきた。てっきり厚意で寄贈してくれたものだと思っていた中学生は、事務局に泣きついて、その後の定期購読を条件にただにしてもらった。『月刊アフリカ』の創刊号が私の手許にあるのはこうした理由からで、昨年刊行された『アフリカ学事典』の挿入写真としても利用した。言語学者の西江雅之の講座でスワヒリ語に触れたのも同誌によるものである。

後に、このアフリカ協会から私は1年間ケニアに留学させてもらうことになった。

松本の高校に入学後、兄を追って山岳部に入部した。2年生の夏に、西穂高岳を集団登山中の同学年生11名が落雷で死亡した。私の同級生も二人命を失った。この事故の数日前、大学山岳部の兄は、前穂高岳で滑落して入院していた。この山岳事故が私たちに与えた影響は大きく、その後自殺をした人や入院治療のために留年せざるを得ない学生もいた。今でも命日の8月1日には、同期の代表が高校に建てられた慰霊碑に集まっている。

落雷事故のため、山岳部に活動自粛指示が出されたが、主将になったばかりの生意気盛りの高校生には、その社会的責任が理解できなかった。ヒマラヤ関連の書籍を読み漁りながら、密かに山に向かった。

松本の古本屋には山岳図書が並ぶ。日本山岳会が、1956年に日本人として初めて8,000mの高峰の登頂に成功した登山報告書『マナスル』は2巻で3,000円だった。当時ラーメンは60円。古本屋の親父に2回払いの月賦にしてもらい、ようやく手に入れた。

ヒマラヤに魅せられた高校生は、ネパール語を学ぼうとしたが、当時は日本語・ネパール語の辞書がなかった。幾多のヒマラヤ遠征隊がネパールでお世話になっているにも関わらず、辞書がないのは情けないと、山岳雑誌『岳人』に投稿し、初めて原稿料をもらった。

松本では、時々文芸春秋社などによる文化講演会が開催された。南極探検の西堀栄三郎や中国文学者の吉川幸次郎が松本に来た時は、授業を抜けて聴きに行った。当時の教員は寛大なもので、こうした高校生の行動を容認してくれた。西堀には『南極越冬記』、吉川には『漢の武帝』（ともに岩波新書）にサインをしてもらった。二人とも京大関係者だった。

人類学者の今西錦司は、ヒマラヤ登山のパイオニアの一人だったが、アフリカでもフィールド・ワークを開始していた。今西の書を通じ、私の関心は次第にアフリカと人類学へと移っていった。

好きなことには夢中になるが、嫌いなことには全く関心がなかった。山岳部の顧問で同郷の先輩でもある物理の教員とは、西穂遭難後の部の運営で対立し、授業中は一番前で山岳雑誌を読んでいた。今では懇意にしていただいているが、全く生意気で嫌な生徒だった。

成績は振るわず、430名中150番から250番の間をうろちょろしていた。経済的理由から国立大学以外の受験は不可能だったが、受験に必要な数学2Bのテストは200満点中20点のできだった。

入学時から特別奨学金3,000円（1,500円のみ返済）を受給していたが、家庭の事情を知った山岳部顧問と担任の配慮で、高校の同窓会が運営している奨学金1,500円（要返済）を受給することができた。そのお蔭で本を買え、また山にも行けた。

大学進学も、奨学金なくしてあり得なかったが、成績不良のためその選から漏れた。長

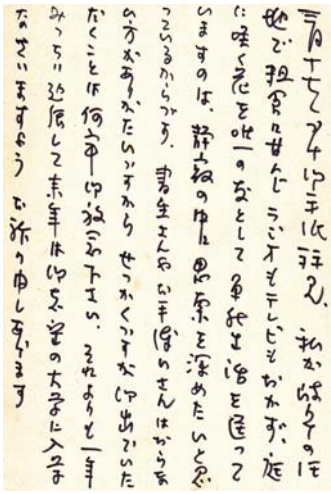
野市の教育委員会までクレームをつけに行ったら、担当者の人がカツ丼をご馳走してくれながら、入学してからでも奨学金は受給できると慰めてくれた。授業をすっぽかしたので、心配した担任は、母親に電話してくれていた。

人類学に目覚めた私は、京都大学を第一希望に考えていた。そのため、当時KJ法などで著名だった東工大教授で文化人類学者の川喜田二郎に会ってみようと思いたち、東工大で教員をしていた叔父に仲介の労を依頼した。バンカラ気取りの私は下駄履きで上京し、川喜田に面会したが、人類学を学ぶのならば東大がいいと、意外な回答だった。東大には泉靖一や寺田和夫がいたが、私の関心は彼らのフィールドの中南米からは遠ざかっていた。

下駄と言えば、ほぼ3年間、冬も下駄履きで通学した。私の実家は標高800mを越える高地にあり、松本まで50分間の汽車通学だった。最寄りの駅は近かったが、松本駅から高校までは徒歩で20分間。マイナス10数度のなかを下駄履きで通ったら、指先に水疱ができた。軽度の凍傷である。さすがに焦ったがこれも耐寒訓練とやせ我慢を通し続けた。

大学紛争のさなか、東大と東京教育大学の入試中止が決定した。京大を第一志望にしていたが合格の見込みはなく、阪大に変更したが、大方の予想通り不合格だった。二期校は大阪外大に出願していたが、受験せずに自宅浪人になった。

当時今西錦司は、岐阜大学学長になっていた。明治時代の苦学生は書生をしながら学業を続けたと、聞いたことがあったので、今西に「書生にしてほしい」と、手紙を書いた。今西からは、「私は静寂の中に思索を深めたいから、何卒ご放念ください。頑張って大学を目指してください」と、丁寧な返信があった。



高校卒業時に、今西錦司からもらった「書生ご放念を」の返信はがき

今西には生前に一度しか会うことができなかったが、それは大学入学後、今西が富山に講演に来たときだった。講演後に『日本山岳研究』にサインをしてもらった。

研究者育ちではない私には、師と呼ぶ人はいないが、あえて最も影響を受けた人物をあげるとすれば、今西錦司だろう。

2年目も志望校を失敗した私は、やっと富山大学文理学部人文学科国史学専攻に合格した。落ちれば、国家公務員初級職員として東京外国語大学図書館勤務が決まっていた。

大学入学祝に母は広辞苑を買ってくれた。ところがその2か月後に、広辞苑の第二版が販売された。私は岩波編集部に「高価な辞書の販売時期を明示せず、旧版を買わせたのは道義に反する」と、抗議の手紙を送った。岩波からは、「新版と交換するから送り返してくれ」と連絡がきた。旧版を送付すると今度は、「両方揃えていた方が勉強になる」と、新旧2冊とも送付してくれた。当時出版社に勤務していた兄から聞くと、玉井乾介と言う業界では名前の知られた役員からだった。

広辞苑については、後日談がある。私は浪人中から郷土史や江戸期の儒学者、国学者の系譜になぜか関心を持っていた。大学入学後も人名事典や広辞苑などを調べながら、系譜図を作っていた。江戸時代に那波魯堂と言う儒学者がいたが、広辞苑では魯堂が那波活所の二男となっていた。自作の系譜図から、活所と魯堂は同時代には生きてはいないことを私は知っていた。人名事典からの明らかな引用ミスだった。私は編集部に誤りを指摘し、その後魯堂は活所の後裔と訂正された。広辞苑を訂正させた大学生はそうはいないだろう。

大学では山岳部には入らなかった。仕送りは期待できず、ようやくもらえた奨学金（8,000円受給、内3,000円返済）とアルバイトで自活しなければならなかったからだ。授業料年額12,000円は免除してもらった。寮、住み込みのアルバイト、下宿と、住居も替わった。

寮生活は息苦しく、部屋のドアに野坂昭如の「とかく雑魚ほど群れたがる」と書いた紙を貼ったら、上級生から「これはなんだ」と、怒鳴られ、結局3か月で飛び出した。

住み込みのアルバイトは、運送会社の社長の息子の家庭教師で、週に6日社長宅で教え、夜は会社の宿直室で寝泊まりした。社長からは通学用にスバル360を貸与してもらい、夕食は毎回社長の家族と一緒だった。

大学の指導教員は、日本史中世が専門だった。ここでも私は教員とそりが合わなかった。歴史は好きだったが、近世、近代に関心があった。さらに学びたかった人類学が諦められず、まだ当時は少なかった、人類学が学べる埼玉大学への転学を考えていた。

アフリカの人類学で著名な長島信弘に会うためにアポもなく埼玉大学を訪問した。しかし、長島は不在で、別の教員が対応してくれた。この人も有名な人だったが、あまりいい印象を受けず、転学はあきらめた。後に、同氏と中部大学で同僚になろうとは、その時は思いもしないことだった。

3年生になると東京のIT企業（当時そういう言葉はなかったが）に転職した兄から、就職情報が送られてきた。家庭の事情から、日本企業は採用してくれないだろうと判断した私は、兄の勧めで外資系企業を受験し、日本で一番古い外資系コンピュータ会社に合格した。

人類学はあきらめたが、未知の地への関心は継続していた。卒業論文は、『北からの使者』と題し、日本海を巡る古代中世の交流史を採りあげ、詩人安藤冬衛の「てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った」を巻頭に掲げた。これが、私が書いた最初で最後の論文となっている。

起伏はあったが、多くの人の厚意や刺激に恵まれた学生時代だった。（敬称略）

※2015年2月6日～27日、本学民族資料博物館で、「日本人が残した写真絵葉書に見る100年前の東南アジア　付アフリカ」展を開催します。科学研究費補助金（基盤C）（2012～2014）及び中部大学特別研究費A（2012～2013）による「南洋における日本人社会の形成と変遷　在日外国人との共生の一助として」研究の成果公表です。ご覧いただければ幸いです。

Profile
国際人間学研究科　歴史学・地理学専攻　准教授
小 林 博 行（こばやし ひろゆき）
1996年総合研究大学院大学国際日本研究専攻修了。博士（学術）。京都大学人文科学研究所助手を経て、2004年より現職。2013年夏から1年間、北京の外交学院で日本語、日本事情などを教える。専門は科学史。

Forum

黄宗羲の授時暦研究

授時暦への関心

北京の中心部にある中国国家図書館の文津館（古籍館）に、『授時暦故』という1冊の写本がある。著者は黄宗羲といい、明末清初を代表する学者の一人として知られる。儒学思想と歴史学で傑出した仕事をした黄宗羲は、かたわら天文学や数学などの分野にも通じていた。

『授時暦故』は、元の郭守敬らによって編纂された授時暦についての考察である。授時暦は中国の暦法のうち最も優れたものとされ、その施行期間は元の至元18年（1281）から明初の改編をはさんで明の滅亡（1644）にいたるまで、きわめて長期にわたる。黄宗羲は、滅びた明の諸制度を文字に遺す仕事の一部として授時暦の研究を手掛けたのであろう。

文津館の『授時暦故』について私が知ったのは、もうずいぶん前のことである。その頃私は、それまで部分的にしか見ていなかった授時暦について一度通して理解しておきたいと思い、『元史』暦志を初めとする関連資料を少しずつ読んでいた。授時暦は、朝鮮王朝においても改編されたかたちで施行され、日本ではやや遅れて江戸時代に多くの研究がなされた。有名な渋川春海の貞享暦も授時暦を基礎としたものに他ならない。施行期間の長さに加えて、東アジア全体にわたるこうした空間的広がりは授時暦の注目すべき点の一つである。

私にとって授時暦が興味深く思われる点はもう一つある。それは、この暦法は元代に編纂され、明初に改編された後、その詳細についての伝承がいったん途絶えたらしいということである。授時暦に限らず、暦法は一連の計算手順としてまとめられており、天文台の専門家はこれにしたがって計算することで毎年のカレンダーを作ることができる。しかし与えられた計算はできても、その手順の根拠となる数学的な考え方や、数値の天文学的な意味はしだいに分からなくなってしまう。

明の嘉靖29年（1550）ごろ、唐順之という学者が授時暦に関する専門的な質問を天文台の役人に投げかけた。しかし、まともな返答は得られなかったらしい。落胆した唐順之は、暦法の学問はいまや「絶学」となったと嘆いた。その一方で唐順之は、天文台に秘蔵されていた一篇の書物を手に入れた。そこには授時暦を編纂した郭守敬の方法の根源が書かれていたという。唐順之は、それを頼りに自ら授時暦を研究し始める。黄宗羲の時代から100年ほど前のことである。

しかし、一度失われた考え方をどのようにして復活することができるのだろうか。新たに理解しなおすことができたとしても、それがもとの考えと同じかどうかはわからない。知識や方法は文字で伝えることができるかもしれない。しかし背後の考え方はどうやって知りうるのだろうか。

文津館に行く

『授時暦故』の「故」には、「古い」という意味と、「ゆえ」もしくは「理由」という意味があるように思われる。「典故」や「故実」というときの「故」とだいたい同じと考えてよいであろう。

1995年発行の『北京図書館普通古籍書目』（自然科学門）には2点の『授時暦故』が著録されている。一つは民国12年（1923）の嘉業堂叢書本、もう一つは「民国間抄本」で「摘抄授時暦草」を附すという。前者は刊行され、日本にも所蔵する機関があるが、後者は写本で影印もないため文津館に行かなければ見られない。

写本『授時暦故』に『授時暦草』の抄録が附されているという記載は私の目を引いた。『授時暦草』という書物は、清初まではあったけれどもその後失われて現存しないといわれる。梅文鼎は清初にこれを見た一人だが、彼によれば『授時暦草』には計算例と図と表があり、授時暦の方法の根拠について多くのことが書かれていたという。明代に唐順之が手に入れたのはこれと似たものだったろうと私は想定しているのだが、残念ながらそれも残っていない。今日『授時暦草』のたとえ一部でも残っていれば、明代後期から清初までの時期に授時暦がどのような形で伝えられ、どのように研究されたかについて重要な手がかりとなるにちがいない。もしかすると、そ

れは授時暦そのものの理解にも寄与するところがあるかもしれない。授時暦はたいへん優秀な暦法だが、現在でも未解明の部分が残されているように思われるからである。

2013年夏から1年間北京で生活することになった私は、少し落ち着いてきた9月のある日、文津館に出かけた。宿舎からほど近い展覧館路でバスに乗り、北海で降りる。厳重に警備された中南海の入り口の対面に文津館はある。大きな門をくぐり、緑色の瓦が美しい2階建ての建物に再会する。『授時暦故』を見にここに来たのは実は2度目だ。2009年12月に来たときは、文津館は修理のため閉館中で、閲覧はおろか建物にも入れなかった。かつては四庫全書が収められていた由緒ある建物だから仕方がない。いつ開館するのかあたりの関係者らしい人に聞いてまわったが、来年の2月だったり、あと数年かかるといわれたり、一向に要領を得なかった。

幸い2013年夏までに修理は終わっており、私はこの度ようやく『授時暦故』を目にすることができた。閲覧室は、少しうす暗いとはいえ、雰囲気は悪くない。古籍を見る人しか来ないので閲覧者は多くないが、かといって閑散としているわけでもない。一言でいえば居心地がよく、じっさい文津館は北京植物園と並んでこの後私がもっとも頻繁に訪れる場所になった。たいてい午前中に別の用事を済ませ、軽く食べてからバスで来る。閉館は17時だが、16時半をすぎるとそろそろ出る支度をしなければならない。帰りはいつも歩く。空気がいい日は正面にみごとな夕陽をみることができる。

『授時暦故』を読む

私は文津館に通い、他の資料を閲覧するかたわら、時間が余ると『授時暦故』を読んでいった。いずれ複製をつくってもらうにしても、せっかく通えるところにいるのだからせいぜい現物で目を通しておこうと思ったのである。善本（貴重書）ならマイクロフィルムで見なければならないところだが、『授時暦故』は普通古籍だから現物が出される。決まった曜日のだいたい同じ時間に私が現れると、閲覧室の係員は、取り置きしてくれていた『授時暦故』を黙って手渡してくれるようになった。

『授時暦故』は予期した以上の内容を含んでいた。写本には嘉業堂叢書本に収録されていない部分があり、そこには授時暦に関して私の知るかぎり他のどの書物にも見られない考察が展開されていたのである。黄宗羲によって書かれたものか、あるいは後で誰かが追記したものかはこれから明らかにしなければならない。しかしいずれにしても、今回北京で得た資料の中では最も重要なものといっていい。一方、期待していた附録の『授時暦草』はそれほどでもなかった。研究・教育面でも、生活の面でも、北京での私の勘はどちらかといえばよく外れた。

文津館の写本『授時暦故』に期待していたことはもうひとつあった。黄宗羲は別の著作の中で、暦学に関する近年の研究には他人からの剽窃があると述べている。疑いをかけられた一人は先述の唐順之、もう一人は邢雲路という明末の学者である。黄宗羲の見るところでは、この二人はいずれも周述学という人物の所説をあたかも自分の説のように述べているという。

暦学に関する唐順之の著述が現存しないことはすでに述べた。一方、邢雲路と周述学の著作はそれぞれ今日に伝わっている。だが、いま両者を見比べてみても、少なくとも私の目にはそれほど似ているようには見えない。黄宗羲は周述学を非常に高く評価し、周述学伝まで書いているのだが、そもそも過大評価している感じがなくもない。もっとも黄宗羲が見ているのは現存するものとは別かもしれないし、あるいは著作の比較以外に何らかの根拠があるのかもしれない。

黄宗羲の見立てがどれほど正当かはいまはおく。むしろこれに関して奇妙に思われるのは、邢雲路の著作の一部が他ならぬ黄宗羲の『授時暦故』ときわめてよく似ていることである。邢雲路の著作『古今律暦考』72巻のうち、巻67以下の諸巻は「暦原」と称し、授時暦の方法の考察に充てられている。これと『授時暦故』とを比べてみると、構成はたがいに前後しているものの、説明や計算例はほとんど同じである。ところどころ一致する文章もある。それにもかかわらず、黄宗羲は『授時暦故』で邢雲路にも周述学にも言及していないのである。

先行する著作を用いて文章を書くのは普通のことだし、その場合、先行する著者をいちいち明記しないこともかつては多かった。しかし他人の著作に剽窃の疑いをかけておいて、自分でほとんど同じことをするとはどういうことだろう。細かいことかもしれないが、私はこのことがずっと気にかかっていた。『授時暦故』はどこまで黄宗羲の著作といえるのか、これでははっきりしないからだ。

残念ながら、文津館所蔵の写本『授時暦故』にはこの疑問に対する手がかりはなかった。いままで知られていなかった記述は見出されたけれども、黄宗羲自身の著述だという証拠はいまのところない。ただ、印象としては、黄宗羲に対する私の疑念は少し晴れた。というよりも、文津館に何度も足を運ぶうちに私はこの問題をあまり気にしないようになった。閲覧室に席を占め、変色した本をめくり、細筆で丁寧に墨書された文字を読む。その文章は、知られているかぎりそこにしか記されていないものだ。本当の著者を確かめることができればそれに越したことはないが、黄宗羲の著作として通用している書物の上にそれは残されている。それで十分なように思えてきたのである。

長年の疑問がこんなふうに消えてゆくとは、われながら想像していなかった。あるいはこれも今回の北京滞在の収穫といえるかもしれない。

引用文献

唐順之『重刊荊川先生文集』巻7「与万思節主事」.
黄宗羲『明文海』巻176「与万思節主事書」評語.
梅文鼎『勿菴暦算書目』郭太史暦草補註.
劉鈍「郭守敬的《授時暦草》和天球投影二視図」『自然科学史研究』1-4(1982).

Profile
国際人間学研究科　歴史学・地理学専攻准教授
一　谷　和　郎（ICHITANI Kazuo）

2001年、慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻後期博士課程単位取得満期退学。中国近現代史、政治史専攻。中華民国史、中国革命史を主たる研究対象とするほか、日中関係史に関心がある。著書に、『近代中国の地域像』（山川出版社、共著）、『救国、動員、秩序－変革期中国の政治と社会』（慶應義塾大学出版会、共著）、『岐路に立つ日中関係』（晃洋書房、共著）などがある。

Forum

貨幣からみた中国革命

はじめに

1949年に中国共産党が政権を握った意味について、これまで多くの研究者がさまざまな視角から論じてきた。かつては土地革命の成果やナショナリズムの動員を共産党勝利の要因とする議論が盛んであったが、今ではそれらの見解を手放しで肯定する研究者は少ない。なぜならば、実証研究の進展により、中国革命が共産党の一貫した指導や戦略のもとで推進されてきたものであるとは必ずしもいえないことがわかってきたからである。現在の中国革命史研究では、各時期、各地域における共産党の政策の断絶性を強調したり、革命を組織する側とその履行を求められる側の両者がともに、状況や場面によって革命に対してさまざまな態度をとっていたことを指摘することが多くなっている。要するに、共産党が権力を確立した原因について、白黒をはっきりさせる革命史観を越える解釈が求められているものの、中国革命の像を結ぶことは一層容易でなくなっているのである。

中国共産党の革命と貨幣

革命現象は、政治の変動と社会の変化が同時に進行するとき発生する。両者の相互作用について考えるための1つの素材として、筆者は共産党の革命権力が発行した貨幣に注目し、それとの関連で党の支配がどのようにして社会に浸透したかを論じてきた。

写真は共産党の革命根拠地が1939年に発行し、流通させた冀南幣という紙幣である。冀南（河北省南部）を含む華北一帯が、日中戦争から内戦期までの中国革命が進行した時代において共産党の一大根拠地であったことは、八路軍のエピソードとともに日本ではよく知られた事実であろう。もっとも、当時の中華民国の政権保持者は国民党率いる蔣介石であり、その政府は法幣という立派な法定通貨を有していたため、蔣介石にしてみれば冀南幣は自らの貨幣主権を脅かす偽札同然のものであった。しかし共産党は、日本の侵攻によって生みだされた権力真空に乗じて華北に二重政権的状況を創りだし、軍隊給養あるいは経済建設を目的として大真面目に紙幣を発行しつづけたのである。なお、現在中国で用いられている人民幣は、冀南幣を基盤として1948年に発行開始されたものである。

写真：冀南銀行 50 元紙幣（1939 年）

とはいうものの、印刷能力を欠く共産党のゲリラにとって、当初紙幣の発行は難題であった。印刷機器には八路軍の師団司令部がもつリトグラフがあてがわれ、ドーリングペーパー等の上質紙やインクは、危険を冒して日本軍が占領する天津や北平（北京）で買いつけられた。高い技術を要する印刷工については、共産党の政治的支配が及ばない都市で募集するほかなかった。最初に技師として革命根拠地に迎えられたのが張裕民という人物である。

1906年、河北省南宮県に生まれた張裕民は、幼少の頃父を亡くして勉学の機会を失い、家族の面倒をみなければならなくなった。紆余曲折を経て、河北省南部の邢台県にある石版印刷局で製版や印刷の技術を学び、3年間精進した。しかしいつしか世間の悪習に染まり、ペンと彫刻刀を用いて地方銀行の紙幣の偽造に手をつけ、入獄する身となった。盧溝橋事件の後、日本軍が邢台へ侵攻した際、運よく出獄した張は、そこで日本人商人目当てのブローカーとなった。そのような折、張は共産党シンパであった知人を通じて八路軍が印刷工を求めているのを知る。1938年、彼は共産党の求めに即応し、ゲリラ根拠地の太行山脈に向かった。根拠地で張は八路軍師団司令部の供給部長に大歓迎され、印刷所長の名義を与えられた。その後、張は技術訓練班を作り、責任者として班員の指導に当たりつつ、冀南幣各券のデザイン、原版制作、インクの調合と色彩統一を一手に引きうける技師となった。冀南幣の図案には、共産党がかつて左派路線を歩んでいた時期に発行した中華ソヴィエト共和国国家銀行券に描かれたレー

ニン像はみられず、地域の景色や人々の素朴な生活風景がそれに代わって表現された。また、共産主義を宣伝し革命を訴えるスローガンも紙幣から消えていた。紙質は劣っていたにせよ、精巧な図案を持つ冀南幣の多数の原版は、張を中心にして制作されたものであったと考えられる。

発券という機密業務に関わることになった張裕民は、しかしながらその経歴からして革命組織者の意にかなう人物ではなかった。彼は共産主義者ではなく、罪を犯したアウトローであり、対日協力者すなわち漢奸（中国人の裏切り者）でもあった。したがって張は、1943年に毛沢東が主導した整風と称するイデオロギー闘争の重点対象となった。おそらくそれ以前から、政治的態度を問われていた人物であったと思われる。あるとき、張は党に対して次のような態度表明を行なっている。すなわち、「私は以前何でもやったが、何をやってもうまくいかず、活路を見出せなかった。……共産党についていけば、必ずうまくやれるに違いない。ここでは私の給料は高く、日常的に馬にも乗れ、さらにコメやムギを口にすることができる。……八路軍と共産党についていけば、活路を見出せることがわかった」というものである。そこには、イデオロギー的共感や民族的正義感といった面で共産党に参加したわけではない、生きていく手立てを根拠地政権に求め、思いがけず漢奸から共産党協力者になった都市の一手工業者の姿がみられるのである。

中国共産党の支配の浸透

1937年7月の日中戦争勃発後、華北では三つ巴の通貨戦が展開されることになったといわれる。国民党、共産党、日本軍の3つの政治勢力によって華北が必争の地とされ、それぞれ自己の貨幣を流通させつつ支配を拡大しようとしていたためである。ところで山岳地域を主要な根拠地とする共産党支配下の農民は、柿、桃仁、棗、羊毛、油といった山村産品に生活の大きな部分を依存していた。それらは冀南幣によって代表される革命根拠地の物資であり、いくつかの通商地点を経由して日本側占領地域へ大量に移出販売される商品でもあった。そこで彼我の間の交易に重要な役割を果たしていたのが投機的な商人たちである。

共産党自身、工商管理局なるものを立ちあげ、商業とくに日本側占領地域との交易を統制する意思をもってはいた。しかし、旧慣に依る商人の活動をすべて代行しうる能力をもってはいなかった。敵か友か不分明な、右でもなく左でもない中間に位置する混沌地域では、使用される貨幣も日系通貨、法幣、冀南幣とさまざまであった。日本側占領地域との交易に役割を果たした商店主は、為替を操りながら共産党地区の山村産品を低価格で買いつけていった。彼らは農民にあらかじめ手付金を渡したうえで山村産品を買いつけ、日本側占領地域の邯鄲や安陽といった都市でそれらを先物取引の商品として売りだす投機商人であった。このような資本主義的方法にしたがい行動する彼らは、共産主義者にしてみれば、旧社会の搾取者として忌むべき存在でもあった。たしかに、所期の収穫が得られなければ農民は莫大な借金を抱える可能性があったであろう。その意味では、投機的な商店主は共産党支配下の農民を搾取する存在であったかもしれない。しかしながら、共産党員の心配をよそに、農民は商店主から冀南幣を受けとって糊口を凌いでいたことも事実である。つまり、農民によって冀南幣は、農業の端境期において食糧や日用品を調達するための貴重な貨幣として受けとられていた。

1943年以降、農村金融を中心に共産党地域政権による社会への資金投下が際立つ。共産党が人民に金を貸しつけるようになったということである。冀南幣を発行する冀南銀行の農業融資では9割が回収されたとされるが、当然ローンを支払えない農民も現われてきた。また、貧農を中心とする「基本大衆」ではない、生きていく手立てのある者が融資金を受けとることもあり、現にある村長は春耕向けに融資された貨幣を裕福な親友とともに懐にしてしまっていた。妻を娶るための支度金として共産党の農業融資を利用した農民もいた。しかしそれとて、たとえ一時にせよ人民が生活を潤せたという事実に違いはない。共産党が打ちだした政策のある部分は、それを通じて社会を思うままに改造しようとする党の思惑とは裏腹に、革命の履行を求められた側では相変わらず日常のささやかな願望を満たすためのものに置きかえられていた。

このように、革命根拠地の農民は生産資金のほか必需品の購入やさまざまな支度金として冀南幣を使っていた。冀南幣は革命根拠地のなかで物資の流通を円滑にし、あるいは日本側占領地域との交易の媒介者として、社会に浸透した。貨幣を必要とする農民に冀南幣が定着するにつれ、農民はそれによって共産党と結びつけられることになったといえる。他方で、共産党は農村における貨幣の循環を通じて社会に権力を浸透させることができた。史料の示すところでは、日中戦争の対峙段階以降、冀南幣は共産党の支配を越えて混沌地域や日本側占領地域でも受けとられる貨幣となっていた。

おわりに

以上、貨幣を媒介にして中国革命における共産党と民衆の境界面について論じた。両者の相互作用の観察から、少なくとも中国革命が、支配－従属や革命－反革命、侵略－抵抗といった単純な対立を解消する物語ではなく、敵との妥協や革命への裏切りを含んだ複雑な事実の連鎖であったことに気づかされるのである。

引用文献

張裕民自述、賈章旺記録整理「我要跟着八路軍共産党走」武博山主編『回憶冀南銀行九年』北京：中国金融出版社、1993年。
一谷和郎「日中戦争期晋冀魯豫辺区の貨幣流通」山本英史編『近代中国の地域像』山川出版社、2011年。

Profile
国際人間学研究科　言語文化専攻　助教
尾 鼻　　崇（OBANA Takashi）

立命館大学大学院先端総合学術研究科先端総合学術専攻修了。博士（学術）。専門は音楽学、情報人文学、ゲーム・スタディーズ。ゲームオーディオや映画音楽を主な研究テーマとする傍らで、文化財のデジタル・アーカイヴやニューメディアのインターフェイス論、ユーザー・エクスペリエンスデザイン、チュートリアルデザインなど知覚・認知に関わる感性学的問題にも強い関心を持っている。

Forum

マックス・スタイナーの映画音楽にみる「ハリウッド式モティーフ」の確立とその発展的可能性

映画音楽研究の射程

「ハリウッド映画のような音楽」と形容される音楽形式がある。大規模なオーケストラ編成によるシンフォニックスコアや、登場物の挙手一投足に対応するように付けられた音（ミッキーマウジングとよばれる）、そして物語と関連性をもたせた音楽的モティーフの運用などがその代表的な特徴といえるだろう。では、このようなハリウッド映画音楽の形式はどのようにして確立してきたのか。そこで本稿では、ドイツにおけるロマン主義音楽（主にリヒャルト・ヴァーグナー）との関係性に着眼しつつ、映画音楽におけるモティーフ、とりわけ「ハリウッド式モティーフ」とよばれる音楽手法の確立について考察し、ハリウッド映画のみならず他の映像メディアへの発展的可能性についても検討したい。

映画における「音楽的モティーフ」の系譜

「音楽的モティーフ」の意味を考える際にまず参照すべきは、西洋芸術音楽の音楽手法であるライトモティーフであろう。ライトモティーフは、後期ロマン主義音楽の巨匠リヒャルト・ヴァーグナー（1813-1883）が自作の楽劇で用いた作曲技法である。

ヴァーグナーが規定するライトモティーフは、意味深い劇的瞬間や付随するテクストと連結しつつ、登場人物、事物、想念、感情を示唆する、明確な連想機能を持つ旋律因子である。ドラマ的モティーフに対応するこれらの旋律因子は、ドラマを通じて適当な文脈に変形されながら再登場することによって、さまざまな意味が付け加えられていくのみならず、ドラマに構造上の全体的な統一感を与えることになる。

ライトモティーフは、アメリカに亡命・移民したユダヤ系作曲家であるマックス・スタイナー（Max Steiner,1888-1971）やエーリッヒ・コルンゴルトらの手によってハリウッドに持ち込まれ、1930年代以降、トーキー技術が一般化した映画において、常套的な音楽手法として確立していく。

亡命ユダヤ人作曲家 マックス・スタイナー

『キングコング』（1933）や『風と共に去りぬ』（1939）、『カサブランカ』（1943）など多数の映画音楽制作に携わったマックス・スタイナーはウィーンの劇場支配人一家の一人息子として生まれ、後期ロマン主義芸術音楽を代表する作曲家であるブラームスやマーラーによって、本格的な西洋芸術音楽の教育を受けていた。その影響は次のようなスタイナーの作風にみることが可能である。

まず、スタイナーのスコアの特徴でもあるオーケストラを駆使した響きの重厚さは、後期ロマン主義芸術音楽の特徴でもある色彩豊かなオーケストレーションの影響である。また、映画の登場人物や「モノ」などと音楽を適応させ、緻密な展開を行うという技術は、まさにヴァーグナーが楽劇で用いた様々な作曲技法の応用といえる。このようにスタイナーは、西洋芸術音楽の手法を映画音楽に応用することによって、独自の映画音楽を作り出していった。

上記の特徴から、スタイナーの活動には通常、分断して捉えられがちである「正統な芸術音楽」と、大衆芸術である「映画音楽」を結ぶ方法論を指摘することができる。

『キングコング』における「ライトモティーフ」の手法

スタイナーは、初期の代表作『キングコング』においてヴァーグナー風の「ライトモティーフ」を採用している。『キングコング』に登場する代表的なモティーフは、「キングコングのライトモティーフ」、「アンのライトモティーフ」、「南海の島のライトモティーフ」の三種類である。「キングコングのライトモティーフ」は、まさに巨大な怪物を表象するかのように、低音のゆっくりとしたテンポでの重々しい半音下降の音型で構成されている。それに対し、「アンのライトモティーフ」は、緩やかなテンポで、主に弦楽器によって優雅に奏でられる。「南海の島のライトモ

ティーフ」は、ペンタトニック風の旋律となっており、いわゆる西洋外文化を音楽側から主張することが図られている。このように個々のモティーフを構成する音階や音色自体にも工夫がみられる。

『キングコング』における「ライトモティーフ」の用法が最も明確に示されるのは、コングに捕らえられたアンの目前で、コングと恐竜とが決闘するシーンである。このシーンでは、コングとアンそれぞれが映像上でクローズアップになると同時に、各々の「ライトモティーフ」が交互に出現する。

また、ラストシーンでは、可能な限り旋律の音楽的終止を引き伸ばしつつ、映像上のクローズアップにしたがって「キングコングのライトモティーフ」と「アンのライトモティーフ」が用いられている。そして、コングがエンパイアステートビルから落下し、映画の終幕が迎えられると同時に、金管楽器の強いアクセントをもって「キングコングのライトモティーフ」が終止形へと向かっていく。

以上のように、スタイナーは「ライトモティーフ」を用いることで、ヴァーグナーのそれと同様のドラマと音楽の直接的な接続を目指している。

『男の敵』にみる「ハリウッド式モティーフ」

『キングコング』の興行的成功から二年が経過し、スタイナーは『男の敵』(1935)において、『キングコング』で導入した「ライトモティーフ」の応用を試みる。それは、さまざまな苦悩を抱える主人公ジッポの心理状態を表現するために、単一のモティーフを映画の終始をとおして効果的に用いるといったものである。

スタイナーは主にジッポがカメラのフレーム内に登場する場面で、かつ彼の心理の動きに合わせて「ジッポのライトモティーフ」を用いている。例えば、ドラマの冒頭でジッポが恋人であるケイティと出会うシーンや、ケイティに愛想をつかされたジッポが賞金欲しさに相棒フランキーを密告するに至るシーンが挙げられる。さらに、ジッポが自らの密告によって死に追いやってしまったフランキーの葬式に訪れるシーンや、相棒を死に追いやった自責心に悩みつつも手にした賞金で渡米を夢見るシーンでも「ジッポのライトモティーフ」は用いられている。とりわけ、ジッポが組織に捕獲されフランキーを密告したことを激しく尋問されるシーンでは、切迫感を持たせて低音を中心にアレンジにされたモティーフが繰り返し用いられており、精神的に追い詰められたジッポの心境が明確に示されている。

スタイナーは、『キングコング』のそれのように「ジッポのライトモティーフ」をカメラワークに適応させつつ複雑に構築するのではなく、単一のライトモティーフを映画中でしばしば登場することによって、理解が容易で親しみやすい通奏低音としての統一感を映画全体にかもしだすことを試みたのである。まさにこれが「ハリウッド式モティーフ」の特色といえるだろう。

「ハリウッド式モティーフ」の確立

スタイナーらは映画という商業主義の新しいメディアに、ライトモティーフという西洋芸術音楽の技法を持ち込み、それを常套化した。スタイナーの手によってライトモティーフは映画というメディアに適応化され、現代ハリウッド映画音楽の土台となったのである。ここが、映画音楽史における大きな転換点のひとつであり、スタイナーによる、映画音楽への主たる貢献と捉えることができる。加えて西洋音楽史上におけるドイツロマン主義音楽の系譜に映画音楽を連ねることもまた重要な視点といえる。

しかしこのような映画音楽の構築は、アドルノらが度々批判するように、芸術の大衆迎合化としての「退化」であると捉えられてきた。

『キングコング』の分析からも明らかなように、ライトモティーフは映画と組み合うことによって、映画の理解を容易とするための道具として用いられた。しかし「ハリウッド式モティーフ」は、その使用方法から、一見、安直にみえがちではあるが、複雑な内在要素を持っている。それは「ハリウッド式モティーフ」の使用によって、映画に、映画のドラマと音楽のドラマ、という二重の軸を存在させている点にある。

その上で、当時の時代背景からこの問題をとらえなおすことが可能である。たとえば、映画の観客の観点から推論をたてることもできるだろう。映像と音声の同期という新しい技術が登場し、また、映画自体の上映時間が長くなり映画の物語が強調されはじめた時代では、映画の観客は映像やそこにあるドラマを説明するためのものとしての音楽を欲していたとも考えられる。しかし、30年代後半、ハリウッド映画が爛熟期をむかえると同時に、観客の映画に対するリテラシーも飛躍的に向上してきたことは想像にかたくない。そのような観客の変容にあわせて、スタイナーは映画音楽の再構築を行ったという可能性も見出せるのである。

今日、「ハリウッド式モティーフ」はアニメーション作品やビデオゲームをはじめとする様々な映像メディアにおいて展開されている。スタイナーと彼の作品が果たしたものは、西洋芸術音楽の技術を大衆芸術にもちこみ、ハリウッドという商業主義システムの一部を構築したという点のみならず、映像というメディアにおける音楽のありようを規定し、また映画音楽における脱ヴァーグナー的観点をも明示したといえるだろう。

主要参考文献

Adorno, Theodor W.、Eisler, Hanns *Composing for the Films* (Athlone Press, 1947/1994)
Chion, Michel、Gorbman, Claudia *Audio-Vision: Sound on Screen* (Columbia Univ Press.,1994)
Lissa, Zofia *Asthetik der Filmmusik* (Henschel-verlag 1965)
ミシェル・シオン『映画にとって音とはなにか』(川竹 英克、J.ピノン訳) 勁草書房 1993
北野圭介『映像論序説〈デジタル／アナログ〉を越えて』人文書院 2009
長門洋平『映画音響論』みすず書房 2014
三浦信一郎『西洋音楽思想の近代―西洋近代音楽思想の研究』三元社 2005

Profile
国際人間学研究科　国際関係学専攻　講師
桃 井 治 郎（ももい じろう）

1971年生まれ。中部大学大学院国際関係学研究科中退。博士（国際関係学）。中部高等学術研究所研究員、在アルジェリア日本国大使館専門調査員を経て、2011年より中部大学講師。主たる研究領域は、国際関係学、マグレブ地域研究、平和学。

Forum

反テロリズムの思想
―アルジェリア人質事件とアルベール・カミュの「反抗」論

アルジェリア人質事件の発生

2013年1月16日早朝、北アフリカ・アルジェリア南東部にあるイナメナスの天然ガスプラントおよび居住区に32人の武装集団が侵入し、内部にいた外国人を人質として施設に立てこもる事件が発生する。日本でも大きく報道されたいわゆるアルジェリア人質事件である。

武装集団は、アルジェリア軍の後退や移動車両の準備、収監されている仲間の解放などを要求する。一方、アルジェリア政府は、事件発生当日にウルドカブリア内相が「テロリストの要求や交渉には一切応えない」と発言するなど、強硬な姿勢を明らかにする。

2日目の17日朝、アルジェリア軍は武装ヘリコプターなどによって居住区に対する攻撃を開始する。一方、攻撃を受けた武装集団は、正午頃、プラント区域のメンバーと合流するため、外国人人質を乗せた6台の車で居住区を飛び出し、プラント区域に向かう。この車両に対し、アルジェリア軍は一斉攻撃を行う。武装集団による自爆かアルジェリア軍による攻撃かは不明ではあるが、6台の車はすべて大破・炎上する。この攻撃で、外国人人質36人のうち8人が救出されたものの、26人が死亡、2人が再び武装集団に拘束された。武装集団側は、16人が死亡、3人が拘束、2人がプラント区域に逃走した。

プラント区域では、その後も外国人を人質に武装集団による立てこもりが続く。3日目の18日、アルジェリア軍は突入作戦を開始する。19日、アルジェリア軍は武装集団のメンバーをすべて掃討し、事件は終結する。プラント区域での犠牲者をあわせると、事件の犠牲者は40人に及んだ。そのうち10人が日本人であった。武装集団側は、32人のうち29人が死亡し、3人がアルジェリア軍に拘束された。

暴力の連鎖

なぜこのような事件が発生したのか、その原因を理解するためには、アルジェリア史について知ることが不可欠であろう。以下では、ごく簡単にアルジェリア現代史について見ていく。

1954年11月1日、アルジェリア全土で、軍隊や警察を目標とする襲撃事件がほぼ同時的に発生する。国民解放戦線（FLN）による武装蜂起、すなわちフランス植民地アルジェリアにおける独立武装闘争の始まりであった。

FLNによる武装蜂起に対して、フランス治安当局は徹底な弾圧を加える。しかし、これがFLNによるさらなる武装闘争の過激化を招き、治安当局とFLNとの戦いは泥沼の状態に陥っていく。国際社会からの圧力もあり、1959年、フランスのドゴール大統領はアルジェリアにおける民族自決の原則に言及し、1962年、ついにアルジェリアの独立が果される。

独立後は、FLN一党制のもと、社会主義経済路線を歩むが、1980年代に入り、政治腐敗や経済不振など国民の不満は蓄積していく。1988年に発生したアルジェでの住民暴動を受けて、当時のシャドリ大統領は複数政党制を含む政治改革を実行する。

複数政党制のもと、1990年に地方自治体選挙が行われ、この選挙で、FLNは大敗し、代わって、イスラム救国戦線（FIS）が勝利を収める。FISは1991年の国民議会選挙でも勝利を収めることになる。

これに対し、既存権力の喪失とイスラム主義政権の誕生に危機感を強くした軍部は、1992年、クーデターを起こし、FISに妥協的なシャドリ大統領を解任し、選挙プロセス・憲法の停止、緊急事態令の布告、FISの非合法化とFIS指導者の逮捕を実行していく。この後、FISの一部は過激化し、軍との間で壮絶な戦闘が始まることになる。

過激路線を取るグループは、1992年にGIA（武装イスラム集団）を結成し、治安機関や政府要人だけでなく、体制を支えるジャーナリストや教員、弁護士、医師なども攻撃対象にしていく。さらに、GIAは、外国人やGIAに与しない一般市民も攻撃対象にし、国内は内戦状態に陥っていく。

1998年、GIA内部の路線対立から、GSPC（宣教と戦闘のためのサラフィー主義集団）が分離する。さらに、事態が変化するのは、2001年のアメリカ同時多発テロ事件であった。この事件の後、GSPCはアルカイダに合流し、AQIM（イスラム・マグレブ諸国のアルカイダ）を名乗るようになる。今回アルジェリア人質事件を起こした武装集団は、GSPCやAQIMの流れを汲むグループであった。

反テロリズムの思想

ドイツの政治思想家カール･シュミットは、政治的な領域が「友／敵」の区別にあるとし（カール･シュミット『政治的なものの概念』）、さらに、非国家主体である「パルチザン」との戦いにおいては、従来の戦争法の「枠づけ」が適用されず、絶対的な敵対関係としての絶滅戦が展開されると指摘した（同『パルチザンの理論』）。アルジェリアで生じている暴力の連鎖は、まさにシュミットの不吉な予言通りの状況である。

それでは、このような絶滅戦に至る絶対的な敵対関係を避ける方法はあるのだろうか。そのヒントをアルジェリア生まれの作家アルベール・カミュの思想に求めたい。

1913年、アルジェリア北東部に生まれたカミュは、青少年時代をアルジェの下町で過ごし、アルジェ大学に進学する。1942年に発表した『異邦人』の成功で文学者としての地位を築き、1957年にはノーベル文学賞を受賞している。

『異邦人』のテーマは、「不条理(l'absurde)」である。「不条理」とは、人間の意思や論理の世界と現実の世界との間の裂け目である。では、「不条理」に満ちた現実のなかで、われわれはどのように生きれば良いのだろうか。その回答こそ、カミュのいう「反抗（la révolte)」である。それでは次に、「反抗」をテーマとする小説『ペスト』を見ていこう。

『ペスト』の舞台は、アルジェリア西部の港湾都市オランである。そのオランでペストが発生し、町は封鎖され、人びとは外部と遮断される。そして、日が経つにつれ、町では犠牲者の数が増大していく。

オラン在住の医師リウーは、ペストに対する根本的な治療法が見つからないまま、それでも日々、医療･衛生活動に奮闘する。また、市民の間でも自主的な保健活動が広がっていく。リウーは、「（神に頼れない以上）あらんかぎりの力で死と戦ったほうがいい」という。もちろんそれは、「際限なく続く敗北」であろうが、「それだからといって、戦いをやめる理由にはならない」として、ただ自分は「自分の職務を果す」とつぶやく。

ここで描かれているリウーの態度・行動こそ、まさに「反抗」の姿である。すなわち、ペストの流行という「不条理」に対して、絶望するのでも、ただ神に祈るのでもなく、たとえ勝利が不確かでも、死に抗うため、それぞれが自らの職務を果たすという態度こそが「反抗」なのである。

なお、カミュは、『反抗的人間』において、「反抗」とは、「許しがたいと判断される侵害に対する絶対的拒否」（ノン）と「正当な権利に対する漠然とした確信」（ウィ）に基づくとしている。すなわち、「反抗」には、「それは行き過ぎだ」とか「越すことのできぬ一線がある」というような限界の概念が存在するのである。そして、人びとの間の守るべきものの共通性によって、「反抗」には連帯が生まれるという。

さらに、カミュは、『反抗的人間』で、「反抗」と「革命」の違いを説明している。すなわち、「革命」が「教義から出発し、そのなかに無理矢理現実を押し込め」ようとするため、「テロと現実に加えられる暴力を避けることができない」のに対し、「反抗」は、「現実を基盤として、真理への不断の闘争へと進む」ため、暴力やテロを付随することなく、「歴史を前進させ、人間の苦悩を軽減する」という。

すなわち、「不条理」な現実に対して、絶望に陥ってなにも行動を起こさないのでも、「正義」を掲げて「革命」を指向するのでもなく、一人一人が「越すことのできぬ一線」に対して「ノン」の態度を取り、「ウィ」の領域を守るために、「反抗」を行うことが求められるのである。

暴力の連鎖が続くアルジェリアの現状において求められているのは、こうしたカミュの思想ではないだろうか。秩序の維持という正義を掲げて武装集団を殲滅するだけでは、暴力の連鎖は終わることはないであろう。一方、だからといって、社会的不正義の変革という正義を掲げるテロリズムを肯定してもならないのである。あくまで、暴力や殺人、テロリズムに「ノン」の態度を取りながら、一歩一歩、社会改善を進めていく「反抗」こそが、いまわれわれに求められている思想であるように筆者には思える。

Profile
国際人間学研究科　心理学専攻教授
願 興 寺 礼 子（GANKOJI Reiko）
名古屋大学大学院教育学研究科修士課程修了。専門は臨床心理学。近著は「心理検査の実施の初歩」（共編著）（2011，ナカニシヤ出版）

Symposium

悩むことは幸せの第一歩
―人を育てる学生相談―

学生相談とは

学生相談とは、大学のキャンパスの中にある学生相談室、保健管理センターの心理部門などで行われている大学生に対する心理的相談活動の総称である。以前は、心に問題のある一部の学生のために行われる特別な援助活動と受け取られてきたが、現在は全学生を対象とし、学生の人間的成長を支援する大学教育の一環として捉えられるようになってきている（文部科学省，2000）。このような行政による後押しとともに、大学側も少子化の中、いかに学生定員を確保するかという経営的な視点から「面倒見のよい大学」を志向せざるを得なくなり、2000年以降、各大学で、学生相談、学生支援が急速に充実してきた（斎藤，2010）。中部大学でも、2008年度から専任カウンセラー2名体制となり、非常勤カウンセラーも3名に増員され、計5名体制で相談活動に当たるようになった。カウンセラーの増員に伴い、利用率も上昇し、2012年度は延べ1907名の学生が来談した。相談内容は、適応心理の問題、卒業後の進路、対人関係、学業や学校生活上の問題など多岐にわたっている。大学は教育研究機関であるが、学生にとっては友人や教職員と出会う生活の場、将来の進路を決める場であり、様々な悩みや課題に直面することになる。そのため学生相談には、よろず相談的な学生生活全般についての広い一般性と、発達や心の健康についての深い専門性の両方が求められる（鶴田，2001）。

最近の大学生の事情

ところで、大学生は、発達段階的には青年期後期、すなわち、子どもから大人になっていく最終段階に位置している。成人期への移行にあたって、青年期の発達課題であるアイデンティティを確立し、「自分はどう生きていくか」という問いにそれなりの答えを出すことが求められる。しかし、最近は、思春期以降、自分について深く考えたり、悩んだりする機会をもたず、とりあえず今を生きてきた若者が非常に多い。学生相談の関係者からは一様に「悩めない、悩む力のない」学生の増加が指摘されている（苫米地，2006）。「明るく元気で悩まないことが好ましいこと」「悩んでいる人は暗くて弱い人」といった誤解が若者達の間で広がり、悩むことの積極的な意味や価値に気づけなくなっている。その結果、悩むことが当然である場面でしっかり立ち止まって悩んだり、自分自身の気持ちや感情と向き合うことができず、すぐに落ち込んだり、身体症状化、行動化に向かってしまうような思春期心性をもつ未熟な学生にキャンパス内で遭遇することも稀ではなくなってきている。最近の学生相談で、抗うつ剤を服用する重症例、リストカットなどの自傷行為があるケース、頭痛や胃痛、不眠を訴えるケースが多くなってきているのも当然の成り行きである。

それでは、このような思春期心性から抜け出せない学生を、一人前にして社会に送り出していくためには、どのような関わりが必要なのであろうか。筆者が学生相談で関わった事例を紹介しながら、考えてみたい。

ある大学生の事例

プライバシー保護の観点から、事例の本質に影響しない範囲で、内容を改変したことを最初にお断りしておく。「　」はクライエント、＜　＞は治療者である筆者の発言である。

クライエント：A子　大学3年生
主訴：進路について
家族：両親・姉・祖父母の6人家族

初回面接では、大学での専門を活かした職業に就きたいとはっきり表明したが、「そのためにどうしたらいいかわからない。人付き合いが苦手」と言い、話し始めるとすぐ涙が止めどなく流れ落ちた。「父の勧めで公務員講座を受講しているが、公務員になりたいわけではない。周囲の人たちは皆、自分で決めてちゃんとやっているように見える」「勉強に集中できず、イライラする」と現状について語る間も、涙が止まらなかった。成績良好、一見明るく、これまでは両親や教員の指示に従ってまじめに頑張ってきたA子であったが、就職にあたって、本当にこれで良いのか、

周囲に比べてひどく劣っているように感じてしまい、そのことが不安になっての来談だった。「嫌なこと（就職のこと）を考えると、すぐに泣いてしまう」と言い、自分にとって困難なことに出会うと、泣くことで直面化を回避しているようであった。

その後の面接では、「寝ている間に、何か起こるのではないかと不安になる。強盗に入られそうでとても怖い」と言って、夜、寝付けないという訴えが続いた。また、「今まで、困ったことがあっても誰にも相談したことがない」と、他者に依存することを良しとせず、周囲の期待にひとりで必死に応えようとしてきたこれまでのA子のあり方が浮き彫りになった。「公務員講座にはほとんど行っていない。罪悪感はあるが、公務員になっても、自分のやりたい仕事ができるかどうかわからない。私の就職のことを父はすごく心配しているが、講座に行っていないことは話していない。もともと自分はお父さん子で、父を心配させたくない」。この頃のA子は、父親の言う通りの道を進んで行くことへの疑問が日増しに大きくなっていくものの、一方で父親の期待を裏切りたくないという気持ちも依然として強く、身動きがとれない葛藤状況にあった。

4回目の面接時、象徴的な夢の報告があった。「母が不在で、父と二人で家に居たら、泥棒が客を装って入ってこようとした。父がドアを開けて見に行ってくれるが、そのすきに中に入ってきて、首の後ろをナイフで刺されるが、全く痛くもなく、怪我もしなかった。特に怖い思いもしなかった。『こら！』と叫んで追い出したところで目が覚めた」＜自分の力で追い出せてよかったね＞と応じると、「とにかく夢中だった」と力をこめた。筆者は泥棒こそが父親の象徴であり、父親と対決して独り立ちしていくことが彼女のテーマであることを確信した。また、その解決に向けてA子の心の作業が順調に進んでいるという手ごたえも同時に感じていた。その後、父親に対する言及が増加し、「結婚するなら父のような決断力のある男性がいい。自分は優柔不断。今まで自分のことを自分で決めて選択するということをしてこなかった」「父に逆らったことは一度もない。父から公務員の話が出るのではないかと落ち着かない。最近の体調の悪さは公務員の勉強をイヤイヤやっているせいだと思う。就活と公務員、2本立てでいくのはきつい。でもまだ公務員のこと、自分の中でけじめがついていない」と、父親からの分離独立をめぐって揺れ動く心情を、筆者に向けてしっかり言葉にする回が続いた。

そんな中で、就活がスタートした。「体調が悪い日も多いが、いくつかの企業にエントリーし、とりあえず就活を始めている。何とかなりそうな気はしている。父が勝手に取引先の会社と縁故採用の話を進めている。放っておいてほしいなと思うが、エントリーだけはしておいた。公務員のことはもう眼中にない」と言うA子に対して＜一見、お父さんに従っているようだけど、自分の考えで動けているように思う＞と伝えると「私、結構頑固だから」という返答。引き続き＜そういう頑固な面を自分ではどう思っている？＞と問うと、「自分がちゃんと出来つつあるのかもしれない」と語り、まんざらでもなさそうな表情を浮かべた。まだ夜が怖くて眠れない日もあり、「自分に対する点数が辛いので、これでいいとは思えない」と言うが、来談当初に比べると確実に自分に対して自信が持てるようになっているようだった。

年度が変わり4年生になる。思うように内定が取れず、「2社落ちてさすがにへこんで体調が良くないが、恵那研修のリーダーをやって、気分転換ができた」と表情は明るかった。また、父親については「このところ話していない。こんなに話さないのは初めて。結局父のコネの会社には落ちて、気を遣ってくれたのか『悩みがあるなら話せ』と言ってくれたが、無視。もう父には就職のこと、口を出してほしくない」と語り、完全に父親からの自立を宣言するに至った。また時を同じくして、第１志望の会社の内定を獲得する。「自分が思っていた仕事に携われそうで嬉しい。両親もほっとしている」「まだ社会人になる不安もあるし、時々夜が怖くなることもあるが、楽にはなった」と、明るい笑顔を見せた。「両親から完全に自立できたとは思わないが、関係はいい。今後はひとりでやっていけそう」ということで、面接は終了となった。

関わりの中で人を育てる

A子の中心的なテーマは依存対象であった父親からの自立であった。何度も繰り返えされた「夜が怖い、泥棒に入られる不安」は、自立に向けて踏み出したいという気持ちが高まってきたものの、まだその自信がなく、父親に守ってほしい、依存していたいという気持ちが勝っていたために生じた不安であったと理解される。当初は、泣いて自分の課題と向き合うことを回避していたA子だったが、面接の中で、時間をかけてこれまでの自分のあり方を丁寧に見つめなおし、父親からの自立や就職に対する不安や迷いなど、種々の感情を言語化し、しっかり悩み考えることができた。それがアイデンティティの確立・自立に向けて歩を進めることにつながっていったと考えられる。杉山（2011）は、自己意識がきちんと芽生えるためには安定した他者との関わりが必要であり、決して自己は自分だけでは作れないことを強調している。学生の成長には、教職員との人間的な関わりが必要であり（桐山, 2008）、安定した二者関係に支えられてこそ、学生は安心して悩み、自分と向き合うことが可能になると考えられる。

引用文献

桐山雅子（2008） 学生相談からみた大学生の発達の特徴 平石賢二編著 思春期・青年期のこころ 北樹出版 pp.140-152
文部省高等教育局・大学における学生生活の充実に関する調査研究会（2000） 大学における学生生活の充実方策について－学生の立場に立った大学づくりを目指して－
斎藤憲司（2010） 学生相談の理念と歴史 日本学生相談学会50周年記念誌編集委員会編 学生相談ハンドブック 学苑社 pp.10-29
杉山登志郎（2011） 発達障害のいま 講談社現代新書
苫米地憲昭（2006） 学生相談から見た最近の事情 臨床心理学,32 金剛出版 168-172
鶴田和美（2001） 学生のための心理相談 培風館

Profile
国際人間学研究科　心理学専攻　教授
小 川　　浩（OGAWA Hiroshi）

1971年名古屋大学大学院教育学研究科教育心理学専攻修士課程修了。「成人男子の紙巻きたばこ喫煙と健康状態」で医学博士（名古屋大学）を取得。愛知県がんセンター研究所疫学部でがんの疫学研究に21年間従事した。研究領域は健康心理学、喫煙対策、がんの疫学など。著書（共著）は「喫煙と健康」、「行動科学と医療」、「がんの民族疫学」など。

Symposium

紫煙の向こうに「幸せ」はあるか

喫煙は災いのもと

喫煙は多くの人命を奪い、QOL（幸福感）を低め、経済損失を個人と社会に及ぼす。たばこの煙は発がん物質、一酸化炭素、ニコチン、粘膜刺激物質など有害物質を多種多量に含み、がん、心臓血管疾患、胎児発育不全、肺気腫などの身体疾患や、「ニコチン依存」および「ニコチン離脱」といった精神行動障害を引き起こすことは、膨大な数の疫学、臨床医学、動物実験などの研究から明らかである（厚生労働省, 2002）。英国男性医師3万4千人を50年間追跡した研究によると喫煙者は平均10年早死にしている（Doll, et al., 2004）。喫煙は一時的な快感を与えるが、長期的には心身の疾患をもたらすものであり、幸せとは縁遠い行為である。貝原益軒は「養生訓」の中で「寿きは万福の根本なり」とし、喫煙の有害性を指摘している。

喫煙者のプロフィール

たばこの煙を吸うだけで、これだけ広範囲に健康影響が及ぶのだろうか、たばこを吸う人の何か特徴も影響しているのではないだろうかと筆者は考えて、ずいぶん以前に喫煙者の特徴に興味を持って調べたことがある。文献調査からは表1に示すように、社会経済的地位は低く、社会移動が多く、外向的で不安定な性格傾向にあり、高身長でやせ型、活動的で、コーヒーや酒をよく飲み、高カロリー高蛋白質の食物摂取量が多いといった特徴が浮かび上がった（小川, 1991）。また、某市職員の健康管理質問紙調査の回答を分析して喫煙者の特徴を洗ってみた。禁煙者を除く対象者約2,500名を非喫煙者、軽度喫煙者（1-19本/日）、中度喫煙者（20-29本/日）、重度喫煙者（30本以上/日）の4群に区分して、調査項目の回答率を算出し、喫煙量が増えるにしたがって回答率に有意な直線増加勾配を認めた調査項目などを拾い出してみた。その結果、各種身体症状の訴えが多く、表2に示すとおり外向的性格傾向にあり、感覚刺激を求めて飲食する傾向がうかがえた（小川, 1980）。

表１　喫煙者のプロフィール　―欧米の文献から―

- 教　育‥‥ 学歴が低い
- 婚　姻‥‥ 多婚、離婚、離別、別居
- 社会移動‥ 転居回数が多い
- 職　業‥‥ 転職が多い、地位が低い、立ち仕事が多い
- 信　仰‥‥ 信仰心が低い
- 家　族‥‥ 親が米国生まれ、子どもが多い
- 性　格‥‥ 外向性、神経症傾向、不安傾向
- 身　体‥‥ 高身長、やせ、皮下脂肪少ない
- 運　動‥‥ スポーツ・レジャー活動をよく行う
- 飲食習慣‥ コーヒー、飲酒、高カロリー、高蛋白摂取

表２　喫煙者の性格および飲食習慣の特徴

外向的性格	
・積極的	・勝ち気
・多弁	・独断的
・無口でない	・衝動的
・神経質でない	・恥ずかしがりやでない
感覚刺激を求めて飲食する	
・コーヒーをよく飲む	・香辛料を好む
・ビール、日本酒を飲む	・塩辛いものを好む
・お茶をよく飲む	・濃い味付けが好き
・炭酸飲料をよく飲む	・野菜を好まない
・少食	・甘いものを好まない
・食べる速さが早い	・果物を食べない

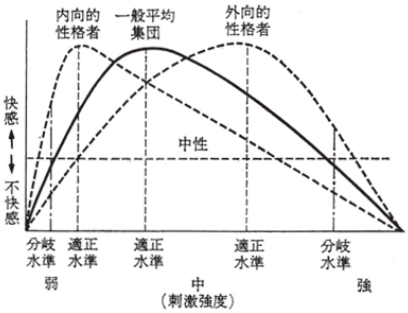


図１　喫煙者は外向的で刺激を求める

刺激を求める喫煙者

外向的性格を喫煙者の特徴としてはじめて明確に示したのは、英国の高名な心理学者アイセンクEysenk, H. J.である。彼によると喫煙者は刺激飢餓の状態にあり、喫煙は彼らにとって格好な刺激追求の手段であると述べている（Eysenk, 1964）。外向性extroversionはアイセンクの性格理論を構成する基本性格次元であり、外向性は大脳皮質下の網様体の賦活水準と関係があると彼は考えている。

図1に示すとおり、一般にヒトは強い刺激や、逆に無刺激の状態を不快なものに感じ、最も快く感じる刺激強度の適正水準があり、この適正水準は網様体の賦活水準と関係があって個人差が大きい。脳波計によるα波の出現や、中枢神経刺激物質の効果に外向的な者と内向的な者で差が認められており、アイセンクは、内向的な者にくらべて外向的な者の方に網様体賦活水準が低いとし、外向的な者は外部刺激を取り入れることによって、内

向的な者は外部刺激を回避することによって、それぞれ適正水準を保とうとする方向に動機づけられやすいと考えたのである。先に指摘した感覚刺激追求的な飲食習慣もこの仮説によく合うし、喫煙者は多婚、離婚、転居、転職が多く、スポーツを好み、座業よりも立ち仕事につく傾向にあるとする文献報告もまた、この仮説に適合する。このように喫煙習慣の背景にある基本的動機は、たばこの煙に含まれるニコチンよる刺激覚醒作用にあるようだ。

ニコチン依存障害と ニコチン離脱障害

ニコチンはたばこ葉およびたばこ煙に含まれるアルカロイドで、中枢神経に対して少量で興奮作用をもたらすが、多量になると逆に抑制作用があらわれる。常習的喫煙者が、ぼんやりしているときにたばこをゆっくり吸うと頭がスッキリして目が覚め、イライラして緊張しているときにスパスパ吸うと気分が落ち着く。さらに、ニコチンが脳内から消失するとイライラ、不安、不快感が生じ、不眠、集中困難、落ち着かない状態に陥る。ニコチンは大脳辺縁系のドーパミン作動神経で構成される「脳内報酬系」に作用することによって、こうした現象が生じるのではないかと、最近の研究からは考えられている。

ニコチンがアルコールや麻薬と同様の依存の形態と機序をもつこと、および喫煙が原因で肺がんや心臓病などのたばこ病に罹っているにもかかわらずたばこがやめられない人々が多くいることから、米国精神医学会は1980年の精神障害の分類の中に「たばこ依存」を初めて導入し、その後DSM-III-R(1987)およびDSM-IV(1994)では依存性物質を特定して「ニコチン依存」を物質使用障害の1つとしている。つまり、ニコチンはアルコール、大麻、コカイン、アヘンなどと同様に表3に示す「依存障害」、および表4に示す「離脱障害」という精神障害を引き起こす物質であると定められたわけである(高橋ら,1995)。このような障害があると診断された喫煙者に対しては、ニコチンパッチやニコチンガムなどのニコチン補助剤の処方を中心とする禁煙治療が禁煙外来で行われている。わが国では禁煙治療は2006年から、公的医療保険の適用対象とされるようになった。しかしこれらの禁煙治療によって一時的に禁煙できても、その後の再発率はアルコールや麻薬の場合と同様に高く、さほど容易ではない。

表3　ニコチン依存 障害 DSM-IV,1994

臨床的に重大な障害や苦痛を引き起こす不適応的な喫煙様式であり、以下の様態のうちの3つ以上が、同じ12ヶ月以内に認められる。

1. 耐性(a)望む効果を得るために、著しく多量にたばこを吸う。
   (b)同量のたばこを吸っているだけでは、効果が著しく低下する。
2. 離脱(a)特徴的な離脱症候群が認められる。
   (b)離脱症状を軽減したり回避しようとしてたばこを吸う
3. 予定よりも多量に、または長い間、たばこを吸うことがよくある。
4. 禁煙したい、または吸う量を減らしたいと願望し、努力するが失敗する。
5. たばこを得るために必要な活動(探し求める)、喫煙(たてつづけ喫煙)、またはその作用からの回復に長時間を費やす。
6. たばこを吸うために重要な社会的、職業的、または娯楽活動を諦めたり減らす。
7. 喫煙によって精神的または身体的問題が持続的または反復的に起こり、問題が悪化していることを知りながら、喫煙し続ける。

表4　ニコチン離脱 障害 DSM-IV,1994

喫煙の突然の中止または減量に続き、24時間以内に次の徴候のうち4つ以上が認められる。

1. 不快または抑うつ気分
2. 不眠
3. 易怒性、欲求不満、怒り
4. 不安
5. 集中困難
6. 落ち着きのなさ
7. 心拍数の減少
8. 食欲増加／体重増加

上記の症状が、臨床的に著しい苦痛または社会的、職業的または重要な領域における機能の障害を引き起こしている。

幸福感をたぐり寄せるには

依存障害にはニコチン、アルコール、麻薬、覚醒剤などによる「物質依存」の他に、ギャンブル、ゲーム、ケータイ、インターネット、買い物、恋愛、仕事、非行、犯罪などの「行為依存」、さらには家族(夫、妻、子ども)、友人、恋人、同僚、上司への「対人依存」もあり、問題視されている。これらの依存障害の背景には、現代ストレス社会が生み出す寂寥感、不安感、不快感を処理したいといったネガティブ動機が関与しており、容易に解決できるものではない。しかし、日常生活の中にあるささやかな感動や楽しみ事を大切にしようする姿勢によって、こうしたネガティブ動機を幾分か軽減することが可能であると期待したい。

幕末万葉歌人の橘曙覧は、「たのしみは」ではじまり、「とき」で終わる和歌52首を、「独楽吟」の中におさめている(高木・久松,1966)。表5にその一部を抜粋してみた。自然を愛で、家族や友人と睦み、飲食を味わい、仕事や趣味に勤しみ、清貧な暮らしの中に喜びを見いだしている様が描写されており、これらの和歌を眺めていると、幸せな気持ちに自ずと導かれ、自分の日常生活の中にある小さな幸せを意識させられ、元気がわいてくる。

表5　橘曙覧「独楽吟」(全五十二首より抜粋)

たのしみは朝おきいでゝ昨日まで
　無りし花の咲ける見る時
たのしみは妻子むつまじくうちつどひ
　頭ならべてものをくふ時
たのしみはあき米櫃に米いでき
　今一月はよしといふとき
たのしみはほしかりし物銭ぶくろ
　うちかたぶけてかひえたるとき
たのしみは心をおかぬ友どちと
　笑ひかたりて腹をよるとき
たのしみは木芽煮して大きなる
　鰻頭を二ほゝばりしとき
たのしみは百日ひねれど成らぬ歌の
　ふとおもしろく出きぬるとき

引用文献

Doll, R., Peto, R., Boreham, J., & Sutherland, I. (2004) Mortality in relation to smoking: 50 years' observations on male British doctors. BMJ 328, 1519-1527.

Eysenk, H. J. (1963) Personality and Cigarette smoking. Life Sciences 3, 777-792.

厚生労働省(2002)新版　喫煙と健康. 保健同人社.

小川浩、富永祐民、青木国雄(1980)成人男子喫煙者の健康状態、飲食習慣、性格および社会的背景の特徴に関する統計解析. 京都大学数理解析研究所講究録 384、161-182.

小川浩(1991)たばこ依存の疫学. 臨床精神医学 20(6), 699-708.

高木市之助、久松潜仙一(1966)近世和歌集　日本古典文学大系93、岩波書店.

高橋三郎、大野裕、染矢俊幸(1995)DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引き. 医学書院.

Profile

国際人間学研究科　歴史学・地理学専攻　博士前期課程

佐 野 浩 彬 (SANO Hiroaki)

1989年静岡県生まれ。中部大学大学院国際人間学研究科（歴史学・地理学専攻）博士前期課程在学中。専攻は都市地理学、地理情報科学、防災論。とくに、地理情報システム（GIS）を用いた、災害発生時における避難行動の分析を中心に、各自治体における防災対策の評価や展望について検討している。分担執筆に、中部都市学会編『中部の都市を探る－その軌跡と明日へのまなざし－』（風媒社、2015年）。

Note

浜松市沿岸部における津波避難施設の圏域分析

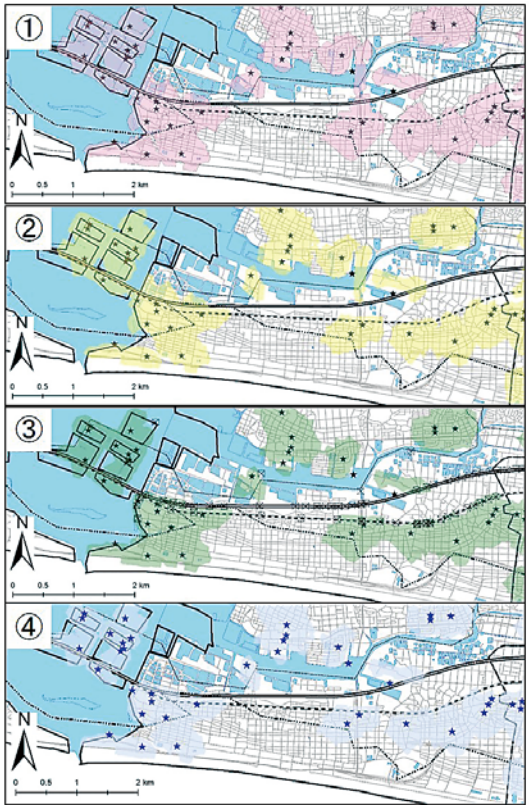
避難に影響を与える環境条件に注目して

本当に津波から逃げ切ることはできるのか？

東日本大震災による津波被害を受けて、沿岸都市では現在、津波対策が喫緊の課題となっている。そして、今後はリアス式海岸のような津波常襲地域だけでなく、遠浅海岸における対策が必要である。

津波から逃れるためには、津波に飲み込まれる前に安全な場所へと避難することが望ましい。しかし、現状では、必ずしもそのような避難が可能であるとはいえない。

本報告は静岡県浜松市を事例に、津波からの避難が可能な範囲を示す避難圏域の分析を通じて、津波避難の可能性を指摘する。さらに、われわれが津波から避難するときは、さまざまな環境条件による影響を受ける。本報告では、街路ネットワークを移動しなければいけない空間的制約と、道路傾斜による歩行速度の減退や、災害時に通行不能となる障害地点を考慮した場合の影響について考察した。



	想定避難人口	
	（人）	比率（%）
想定津波浸水域（～0.3m）	44,223	100
500mバッファ避難圏域	31,386	71.0
①街路ネットワーク避難圏域	20,480	46.3
②傾斜条件での避難域	18,896	42.7
③障害条件での避難域	18,769	42.4
④傾斜＋障害	17,206	38.9

★ 津波避難ビル
津波浸水深（～0.3m）
津波浸水深（2.0m～）
新幹線
JR東海道線
道路ネットワーク500m圏内
傾斜条件を考慮した避難域
通行障害を考慮した避難域
傾斜条件と障害条件を考慮した避難圏域

図表　浜松市沿岸部における津波避難施設の避難圏域の分析結果

浜松市における避難圏域の分析結果と考察

図表は、それぞれの条件における避難圏域の分析結果である。読み取れる結果は、以下の5点である。

1）いずれの場合も、中央部に避難困難地域（空白地域）が広がっている。

2）①街路ネットワークのみを考慮した場合でも、避難可能人口は約4割強である。

3）②傾斜条件と③障害条件を考慮すると、避難圏域はさらに縮小する。

4）②傾斜条件による影響は、浜堤や鉄道路線付近で見られる。

5）③障害条件による影響は、津波避難施設が鉄道や河川付近に位置すると避難圏域の縮小が大きい。

以上より、避難時には、街路ネットワークや環境条件による影響を大きく受け、避難圏域が縮小することが指摘された。結果として、現時点で、浜松市における津波避難の可能性は厳しい状況にあると言わざるを得ない。今後は、できる限り、現実に即した分析を通じて、地域に応じた防災対策の方向性を検討していく必要がある。

Profile

国際人間学研究科　言語文化専攻　M1

Matthew LANIGAN（マシュー・ラニガン）

1987年アメリカ・ピッツバーグ市生まれ。2011年オハイオ大学文理学部言語学科卒業。中部大学大学院国際人間学研究科博士前期課程在学中。量的分析に基づく、生教材の評価基準に深い関心を持ち、特に日本のアニメの日本語とその日本語教育への応用について研究。将来、ポップカルチャーの生教材を中心とする外国語としての日本語カリキュラムの開発を目指している。

Note

日本語教育から見た「アニメの日本語」

コーパス日本語学に基づく現実性および適切性分析

はじめに

海外の日本語学習者の約400万人の中、54%が「アニメ・マンガ・J−Popなどが好きだから」日本語を勉強していることが明らかになっている（国際交流基金2013）。そこで、アニメなどを使って日本語学習者の動機づけを高める力が期待され、アニメを使った日本語教材の開発や日本語授業への実践例が報告されている（熊野2009）。このような実践例では、アニメの使用は基本的に動機づけのための補助教材であるが、牧野（2008）や柴田（2008）で報告されている『千と千尋の神隠し』を利用した授業のように、アニメを主教材にした授業例もある。

しかし、日本語の授業でアニメを主教材にすることで、日本語を十分に教えられるのだろうか。アニメの日本語が不自然だったり、日本語教育を通して身に着けてほしい能力を養うのに不適切だったりすれば、アニメは主教材として不十分といえるだろう。そこで、アニメを教材化しようとする前に、アニメに現れている日本語の現実性と日本語教育への適切性を証明する必要があると考えられる。

「現実性」とは？

この研究において、「現実性」というのは、簡単に言うと、現実に使われている日本語との一致を表す。

例えば、作品のジャンルによって使用されている語彙に偏りがあれば、その作品の語彙は現実的ではないという言い方をする。一方、分析上その作品と現実それぞれの日本語の使用が一致していれば、現実的であるということになる。

以上のようなジャンルの揺れといった問題を防ぐために多くのジャンルのアニメを対象とし、また、語彙以外にも文法比較分析を行うこととする。これによって有意義な「現実性」分析を行うことができると思われる。

「適切性」とは？

「適切性」というのは、この研究において、日本語教育の目的を果たせるかどうかを表す。日本語教育から見た語の重要性や学習項目の出現などが「適切性」の構成要素となる。

例えば、アニメは「適切性を持つ」とすれば、それは日本語教育の目的を十分に果たせ、日本語授業の教材としてふさわしいといえるだろう。一方、「適切ではない」ものは重要なところが欠けており、それだけで授業を行うことが難しいと考えられることを表す。

しかし、「日本語教育の目的」といっても、実際に様々な基準（旧・新日本語能力試験、日本語教科書、ACTFL OPIなど）があり、どれが最も重要かというのは非常に困難な問題だと考えられる。

おわりに

本研究では、日本語学習者の動機づけとニーズを考え、アニメの主教材使用を目指すが、まず、証明しなければならないと思われる「現実性」と「適切性」を分析によって見出す。

そのために現在、コーパス開発と分析ツール『Co-Chu』を開発している。『Co-Chu』を利用し、アニメ日本語コーパスを開発する。アニメ日本語コーパスを分析し、日本語教育および現代日本語との関係を明らかにする。

現実的かつ適切である作品を利用した外国語としての日本語カリキュラムの開発を今後の課題としたい。

参考文献

熊野七絵（2009）「アニメ・マンガ資料一覧」国際交流基金関西国際センター公開講座『アニメ・マンガと日本語教育』

国際交流基金（2013）『海外の日本語教育の現状』くろしお出版

柴田智子（2008）「アニメを利用した日本語教育−学生の評価とOral Summaryの分析を中心として−」畑佐由紀子編『外国語としての日本語教育−多角的視野に基づく試み−』くろしお出版, pp. 83-102

牧野成一（2008）「日本語・日本文化教育とアニメ−『千と千尋の神隠し』の場合−」畑佐由紀子編『外国語としての日本語教育 −多角的視野に基づく試み−』くろしお出版, pp. 61-81

Profile

国際人間学研究科　国際関係学専攻　博士前期課程２年

Shah Thakuri Sunil（サハ タクリ スニル）

ネパール出身。2006年10月に来日し、日本語学校、専門学校を卒業し、2012年3月鈴鹿国際大学を卒業。現在、国際政治・経済コースを中心にネパールの経済開発・成長を向上させ、ネパールのあらゆる問題解決に貢献できるネパールの大きな国内産業、手工芸産業の活性化について研究中。

Note

A Study on Activation of Nepalese Handicraft Industries

Nepal is located as a landlocked country between two big nations, India and China. It is the birthplace of Lord Buddha and the country of the highest peak of the world, Mount Everest. Besides that, Nepal is also a country of various ethnic groups who live together happily and cooperatively, enjoying their own cultures and traditions. From those cultures and traditions unique handicrafts and arts were born.

Almost 125 ethnic group who live in Nepal have their own culture and traditions and different cultural dresses, ornaments and utensils used in various festivals and cultural events. Those dresses, ornaments and utensils usually reflect their tradition and culture which are made since a long time ago using unique designs, materials and techniques of that time. We call this kind of industry handicraft.

History of handicraft in Nepal started in the 4th century when woolen blankets were made from the wool of sheep that became famous for their good quality. From that period on various handicrafts have been introduced and promoted as a form of small scale and cottage industries. At the present time, this industry has become a major exporting industry in the country, which exports its products to more than 80 countries, earning huge foreign exchange helping national economic growth. It also employs around 1 million of the population of the country. Within 30 years of aggressive export to the foreign markets, it experienced many ups and downs, but still manages to remain the leading export industry. But it suffers many problems, including production, exporting and marketing processes.

Most of the problems are manageable through proper management, governance and the help and guidance of the government. Implementation of proper rules and policies, proper governance of government officers, and financial help and guidance by government can help to overcome its many problems. But problems like marketing process or marketing strategies need research, knowledge and time to improve. Proper research and surveys of markets and customers are vital to understand current trends, needs and wants of customers in this globalizing world. Proper promotion and marketing strategy is needed to lead and to maintain a position in the national and international market.

Although Nepalese handicraft industry has had ups and downs in export in previous years; its export is increasing at the present time. Proper promotion in international trade fairs, appreciation of dollar against rupee etc. were some favorable factors for this increase in exports, but it is not predictable that it continues in the same way from now on.

Therefore, for continuous increase in export, aggressive attendance in international trade fairs, doing surveys of markets, customers and current trends of domestic and international markets, the use of the internet for promotion, marketing and selling its products are vital. Also acceptance of foreign investment and joint ventures can help improve its capital capacity, market share and technology.

中部大学国際人間学研究科

国際関係学、言語文化、心理学、歴史学・地理学の各専攻は、文化的、歴史的基盤にたちながら、国際社会でコミュニケーション能力や関係構築能力が十分発揮できる人材、あるいは人間、社会、地域の本質を把握し、柔軟に行動できる人材を総力を挙げて育成します。

国際関係学

言語文化　心　理　学

歴史学・地理学

国際関係学専攻

科目【博士前期課程】

国際政治経済研究コース

政治経済研究特論/国際法特論/国際政治学特論/国際経済学特論/国際機構論/応用計量経済学/国際金融論/国際協力論/開発経済学特論/開発ガバナンス論/発展途上国論/国際社会開発論

国際社会文化研究コース

社会文化研究特論/文化人類学特論/国際社会学特論/観光人類学特論/国際ジェンダー論/比較文明論/比較環境論/比較社会史論/比較宗教論/ヨーロッパ社会文化研究特論/アメリカ社会文化研究特論/中東・アフリカ社会文化研究特論/中国・アジア社会文化研究特論/国際比較文明特論/地域言語特殊研究

共通科目

研究方法論/臨地研究論/近代世界表象体系

特別研究

研究指導/課題指導

研究科共通

日本語論文の書き方

科目【博士後期課程】

国際政治経済学専門研究演習
国際社会文化論専門研究演習
国際比較文明論専門研究演習

言語文化専攻

科目【博士前期課程】

ジャーナリズムコース

研究基礎（情報収集、メディア・クリティシズム）/現代国家・制度特論/現代史特論/情報産業・流通特論/現代社会特論/社会心理学特論/情報技術とメディア特論/ジャーナリズムと倫理特論/現代の広報特論/報道記事作成技法/ドキュメンタリー作成技法/プロジェクト/研究指導

英語圏言語文化コース

応用言語学特論/英語教育法特論/英語学特論/英米文学特論/英語圏言語文化総論/研究指導

日本語日本文化コース

日本語学特論/日本語教育学特論/古典文学特論/近代文学特論/日本文化特論/伝承文芸特論/日本芸能特論/国語教育特論/研究指導

共通

近代世界表象体系

研究科共通

日本語論文の書き方

科目【博士後期課程】

メディア・コミュニケーション専門研究
英語圏言語文化専門研究
日本言語文化専門研究

心理学専攻

科目【博士前期課程】

心理学科目群

心理学研究法特論/知覚心理学特論/健康心理学特論

学校心理学科目群

認知心理学特論/社会心理学特論/発達心理学特論/臨床心理学特論/教育心理学特論/学習指導法特論/学校教育特論/障害児心理学特論/生徒指導特論/心理検査法特論/学校カウンセリング特論/教育統計学特論

特別研究

研究指導/課題指導

研究科共通

日本語論文の書き方

科目【博士後期課程】

学習心理学専門研究/教育心理学専門研究/認知心理学専門研究/臨床心理学専門研究

歴史学・地理学専攻

科目【博士前期課程】

歴史学コース

日本古代史特論/日本中世史特論/日本近世史特論/日本近代史特論/日本現代史特論/アジア史特論/中国史特論/ヨーロッパ史特論/アメリカ史特論/社会経済史特論/思想史特論/文化史特論/技術史特論/美術史特論/歴史学研究

地理学コース

経済地理学特論/産業地理学特論/歴史地理学特論/文化地理学特論/都市地理学特論/地理情報学特論/都市政策学特論/自然地理学特論/地誌学特論/地理学研究

共通科目

近代世界表象体系

特別研究

研究指導

研究科共通

日本語論文の書き方

科目【博士後期課程】

歴史学専門研究演習
地理学専門研究演習

Chubu University Graduate School of Global Humanics

●発行：中部大学大学院国際人間学研究科
●編集者：林　　上
●発行日：2015 年 2 月 13 日
●〒487−8501　愛知県春日井市松本町 1200
●中部大学国際人間学研究科（国際関係学部事務室）
●電話：0568-51-4079（直通）　●ファクス：0568-52-1325
●電子メール：inkn@office.chubu.ac.jp
●国際人間学研究科ホームアドレス：
http://www3.chubu.ac.jp/graduate/global_humanics/